

「人権のひろば」に対するご意見、ご感想は戦略企画室 広報広聴グループ または、人権室までお寄せください。

知ることから始めよう

精神疾患治療で行われていること

近年、生活環境の変化や過度のストレスにより精神疾患を有する人が増えてきています。皆さんは精神疾患の治療というと、どのようなイメージを持っていますか？

日本における精神疾患の治療の変遷を見てみると、明治から昭和にかけては、家族の申請により鍵のかかった部屋に閉じ込めることを認める制度も存在しました。昭和

に入ってから病院を増やし患者を収容するという方針が強くなり、入院すれば長期間になる傾向が見られ、患者本人にとって大きな負担となっていました。

現在は、医療の発達とともに、効果的な治療も確立され始め、昔に比べ長期入院よりも地域で通院しながら生活するといった治療方針が一般的になりました。ただ、

詳しい治療方法については、知る機会が少ないため、症状の程度に関係なく、全ての入院患者に対し、いまだに「無理やり手足を拘束する」「強制的に鍵のかかった部屋に閉じ込める」といった人権を無視した治療を行うイメージを持っている人がいるかもしれません。

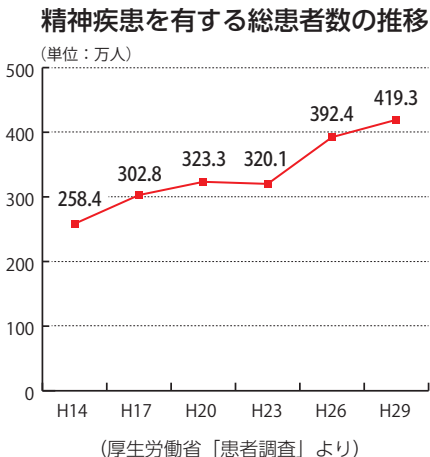
現在の医療は、患者の人権を尊重するために患者本人をはじめ家

族にも十分な説明を行い、同意を得た上で、治療を進めます。しかし、精神疾患の特徴として、病気の影響により本人が精神疾患であるという認識を欠き、治療が必要な状態にもかかわらず、説明や説得を受けても治療への同意が得られないことがあります。こういった場合、そのまま放置してしまうと、本人の生命や周囲に大きな影響が出てしまう可能性がありますので、やむを得ず本人の同意によらない入院や内側から鍵が開けられない部屋への隔離など一定の行動制限を行えることが法律で認められています。ただし、人権に適切な配慮を行うために、医師なら誰でも制限できるとはせず、精神保健指定医という一定の資格を有した医師の診断に基づくことが必要とされています。このように、一つひとつの治療や判断においても、患者本人の人権が尊重されるようになっていきます。

◆ ◆

今回は精神疾患について取り上げましたが、私たちは詳しく知らない物事に対して、恐れや不安を持ってしまいがちです。そこから、差別や偏見が生まれているのかもしれない。知ることと思ひ込み

やイメージに惑わされることなく、物事の本質に向き合えるのではないのでしょうか。

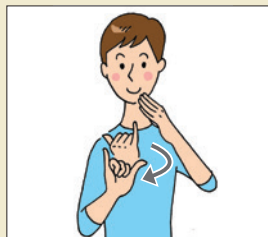


手話コーナー No.31

今回のテーマ 家族⑥

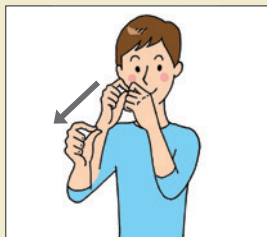
家族

左手を斜めに構え、その下で親指と小指を立てた右手を前から半回転させる



親戚

親指と人さし指でつまんだ両手を右頬につけ、右手のみそのまま前へ



※このイラストは右利きの人が表示しやすい形で作成していますので、左利きの方は左右逆に表現していただいても構いません。

FAX 073-38338
 障害福祉課 ☎070-9630